

8207 階段をあがって来る軽い足音がした。  
階段をあがって来る軽い足音がした。  
「はいっていい？」  
少女めいた、澄んだ声だ。  
「ああ」  
返事より先に扉があいて、小森敦子の顔がのぞいた。  
「これー」  
持ってきた平たい紙包みを差し出した。  
「なんだいこれ？」  
「あけてごらんなさい」  
「本だな」  
本となると目の色の変わる次郎だ。急いで包みをひらく。  
「あ、この本ー」  
「中原中也の詩集よ。欲しかったんでしょう？」  
「どうして知っているんだ？」  
「どうしても」

仁木悦子『枯葉色の街で』

#### [許容訳例]

Light footsteps were heard ascending the stairs.  
"May I come in?" It was a clear, girlish voice.  
"Sure."  
Almost before the answer, the door opened and Komori Atsuko looked in.  
"Here--"  
She gave him a flat paper package she had brought with her.  
"What is it?"  
"Just open it, anyway."  
"A book--, right?" Jiro had a weakness for books.  
Quickly, he untied the parcel.  
"Why, how…?"  
"It's a collection of poems by Nakahara Chuya. You wanted it, didn't you?"  
"How did you know?"  
"Because I did."

#### [翻訳例]

Light footsteps came up the stairs.  
"May I come in?" The voice was clear, girlish.

“Sure.”

Almost before he could reply, the door opened and Komori Atsuko looked in.

She held out a flat paper parcel she was carrying.

“Here--”

“What is it?”

“Open it and see.”

“A book, I’ll bet.” Jiro could never resist a book.

Hurriedly, he untied the parcel.

“Why, how…?”

“Poems by Nakahara Chuya. You wanted it, didn’t you?”

“How did you know?”

“I just did.”

### ■階段をあがって来る軽い足音がした. (8207)

★「階段をあがる」は go[come] up the stairs; ascend the stairs です. go と come の違いは「上がって行く」と「上がって来る」です.

★「足音」は、辞書には footsteps と出ていますが、「音」が入るかどうかは微妙です。ですから、たとえば、「背後の足音」を the sound of footsteps behind me としたり, I heard someone coming としたりします。ここも There was[came] the sound of light footsteps…とすれば一応完全な英語になりますが、普通、「歩み・足取り」(footstep)には音が付きものなので、音も含ませて「軽い足音」は light footsteps とします。

#### ●「連帯修飾節+不定代名詞的体言」(階段をあがって来る軽い足音)

「階段をあがって来る軽い足音」は「連体修飾節(階段をあがってくる) + 体言(軽い足音)」ですから「名詞(light footsteps) + 関係詞節((which were) ascending[coming up] the stairs)」で、上に示したように There was[came] the sound of light footsteps (which were) coming up [ascending] the stairs.と書くことができます、「(軽い足) 音がした」は知覚動詞の構文を利用して Light footsteps were heard ascending[coming up] the stairs.と書くことができ、さらに Light footsteps came up the stairs.とすると「(足) 音が上がってくる」のイメージで footsteps という一語に were heard を含めることができます。なお、ここで足音を聞いたのは He (次郎) なので、これを主語にして He heard light footsteps on the stairs.としてもいいでしょう。

### ■「はいっていい？」(8207)

★「はいっていい？」は May I come in? しかないでしょう。日本語より正式ですが「・・・していい？」という親しみを英語で表すのは無理です。それから Can I come in? は、場合によっては使えることがあります、今でもあまり英語としてはよくないということになっています。

■少女めいた，澄んだ声だ. (8207)

- ★「少女めいた」は *girlish* です.
- ★「澄んだ」は *clear* とか *pure* です.

●形容詞の順序・文の組み立て・文体，など

「少女めいた，澄んだ声だ」の形容詞の順序ですが，例外もたくさんありますが，英語では，*basic* なものほど名詞に近づけるのが自然に聞こえます。ですから，ここでは日本語の順序を入れ替えて *It was clear, girlish voice* です。さらに言えば，*voice* を主語にして *The voice was pure and girlish.* にした方がいいでしょう。どちらかというと，英語ではこのように意味のあるはっきりした具体的な言葉を頭に持ってきた方が，*it* のような，弱い小さな言葉を並べるよりは文体としていいと思います。それから *and* ですが，人によっては外してコンマにします。現代的というか，最近の一つの流行だと思います。それから，日本語では「はいっていい？」の次の「少女めいた，澄んだ声だ」が改行されて二行になっています。これは書く人の好みとか習慣にもよるのですが，英語では *said* を含ませる感覚で一行に書くのが普通だと思います。その意味でも *the voice* を主語にすると，“*May I come in?*” *said the voice. The voice was clear and girlish.* と自然の流れとなります。

■「ああ」(8207)

アメリカ英語なら *Sure.* ですが，イギリス人はこれは使いません。軽く *Do.* と言います。なお，*Please.* とは言いません。*Yes* なら使えますが，イントネーションによって非常に感じの変わる言葉なので，書き言葉としては使わない方がいいでしょう。

■返事より先に扉があいて，小森敦子の顔がのぞいた. (8207)

★「返事より先に」ですが，「ああ」という返事が前の行にすでに出てるので，英語では *before the answer* とは書くことはできません。書くとすると「返事とどちらが先かわからないくらい早く」(*Almost before he could reply*)くらいで，くどくなりますが *He had almost no time to reply before…* というようになります。

★「扉が開いた」は *the door opened* です。「扉が開けられた」の積もりで *the door was opened* と受動態にすると，*Someone opened the door.* という行為者の存在が意識され，この文脈では小森敦子以外の誰かが開けたということになってしまいます。

● [て]

この [て] は「順次」なので *and* でいいでしょう。

★「小森敦子の顔がのぞいた」の「顔」にこだわると *Komori Atsuko's face appeared* でもいいかもしませんが。 *Komori Atsuko looked in.* でもいいです。この *look in* は *look* より *in* に比重がありますから。

■「これー」(8207)

★「これー」と何かを渡すときには *this* ではなく，英語では *Here* です。それから細かいことですが，引用符を使って“*Here--*”とダッシュを使う場合，ダッシュの後にピリオドは打ちません。

## ■持ってきた平たい紙包みを差し出した. (8207)

「(彼女は)持ってきた(～)」は～(which) she was carryingとか,～(which) she (had) brought with herです。

★「平たい紙包み」はa flat paper package[parcel]です。なお,冠詞はaです。theにするのは,彼女が包みを持ってきたということを読者がすでに知っていることになります。

### ●「連体修飾節+不定代名詞的体言」(持ってきた平たい紙包み)

「持ってきた平たい紙包み」は「連体修飾節(持ってきた)+体言(平たい紙包み)」ですから,英語では「名詞(a flat paper parcel)+関係詞節((which) she was carrying)」で変換できます。

★「差し出す」は,ここではhold outがいいでしょう。辞書にはpresentも出ていますが,これは「贈呈す」という意味で,その場合は,たとえば,I presented him with a silver watch to mark his twenty-first birthday.のように, present someone with somethingの形で使います。なお, present somethingは,たとえば, When you enter that building, you must present your pass.のように「提示する」という意味ですし, he presented a cheerful face. (心の中は暗かったが周囲に対しては明るい顔をして見せていた)のような意味になります。

## ■「なんだいこれ?」(8207)

★「なんだい」という日本語の感じを英語で出すのはまず不可能です。ここは“What is it?”です。なお, thisも使えなくはありませんが,その場合はそれを指して改めて驚きをこめて尋ねるような感じになります。

## ■「あけてごらんなさい」(8207)

★「開けてごらんなさい」は“Just open it, anyway.”でもいいです。他に“Open it and see.”が使えます。これは“Open it and see what is inside it [what you find].”という意味です。この場合,これが一番日本語に近いと思います。

## ■「本だな」(8207)

★「本だな」も難しく,ぴったりした訳はないと思われます。この場合の「本だな」は,だいたいわかっていて,軽く相手に確認する言い方ですから“I know—it's a book.”となります。これでは日本語に比べるとちょっとしつこい感じがします。他には,“A book, I'll bet.”とか“A book, isn't it?”とか“A book, right?”などが考えられますが,どれも日本語の感じとは違います。特にrightはアメリカ人がよく使いますが,場合によってはちょっとぶっきらぼうな感じになることがあります。なお,“It must be a book.”は,二人でいろいろ考えた結果本だろうと推断した場合に使うので,ここでは使えません。

## ■本となると目の色変わる次郎だ. (8207)

★「本となると」を,ここではAs for books,…と訳すことはできません。As forは難しいのですが,必ず何か他のものと比較して区別をはっきりさせるために使う表現です。たとえば,As for me, I don't care what time you come.のように。

★「～となると目の色変わる」は辞書的には「何か～に夢中・熱心であるさまの表現」と

いうことで、相当する英語は、たとえば、She could not resist the chocolate. (彼女はチョコレートには目がなかった) のように「否定語+resist」が普通です。これを使うと、ここも Jiro could never resist a book.となります。日本語の「目の色が変わる」に近い表現を探すと、朝日出版社の辞書に「ヨットの話になると目の色が変わるのがね」(Your eyes really light up when the conversation turns to yachting.)という例が出ています。これは米語の話語です。それから「～となると目の色が変わる」というのは、内容的には「～に対して厳しくない・甘い」などの意味で「～には弱い」(男は誰でも若い女性に弱い。Every man has a soft spot for young women.)という言い方がありますが、「次郎は本には弱かった〔好きでたまらず、評価基準が甘い・厳しくない〕」と考えると Jiro had a weakness for books.とか Jiro had a weakness where books were concerned.などが考えられます。ただし、be weak in [at]…は「不得手・からきし駄目」の意味 (I'm weak in[at] physics. (僕は物理が弱い〔不得手〕)) で、ここでは駄目です。

### ●文構造◆時制（現在時制）の問題

「本となると目の色の変わる次郎」は、形式から見ると「連体修飾節（本となると目の色の変わる）+特定体言（次郎）」ですが、この {準単位情報}（本となると目の色の変わる次郎）がさらに別の {単位情報} と結びつくわけではないので、正常の {単位情報} 文に戻して変換することになりますが、そうすると「本となると目の色の変わる次郎だ」は次郎のいつものことを表していると考えることができますので日本語では現在時制で、英語も現在時制でいいのではないかと思われますが、英語では地の文は過去時制で書かれているので、ここでは過去時制にしなければなりません。現在時制が使えるのは、たとえば、次郎という人が実際に、書いた人も読者も両方実際に次郎のことを知っているような時に限られます。この次郎はあくまでも作品中の架空の人物ですから、現在時制は使えません。

### ■急いで包みをひらく。 (8207)

★「急いで」は quickly とか hurriedly とかでしょう。in haste は何となく「催促されて〔急かされて〕・慌てて」という感じがします。

★「開く→開けた」は紐の掛かっているものなら parcel (小型の包み) でも package (中型の包み) でも untied が使えます。他には unwrapped; opened も使えます。

### ■「あ、この本——」 (8207)

ここも難しいです。そのまま変換すると“Oh, this book—”で、読み方とイントネーションによってはいいかもしれません、やはりこれだけでは感じがわからないと思います。ここは“Why—it's”にすれば、it's (just what I wanted) とか it's (just the book I was thinking of buying) という感じが出せると思います。あるいは“Why, how…?”としてもいいです。

### ■「中原中也の詩集よ」 (8207)

★これは(It's) a collection of poems by Nakahara Chuya.とか、(It's) Poems by Nakahara Chuya です。「よ」のイントネーションによりますが、「決まっているでしょ、中原中也の詩集よ」という感じなら It's を付けることになります。

■欲しかったんでしょう?」(8207)

★すでに手渡したので過去時制で You wanted it[them], didn't you?"です。

■「どうして知っているんだ?」(8207)

★日本語では「知っているんだ?」でも通じますが、英語では過去時制で How did you know (that)?にしなければなりません。それから「どうして」は「どういう理由で」(why)ではなく「どんな風にして」(how)を使います。

■「どうしても」(8207)

★これも難しいですが、Because I know that.ではなく Because I knew that.であり、これを Because I did.あるいは I just did.とすると自然になります。